

宮沢地区公民館だより



令和 5年7月1日
発行：宮沢地区公民館
電話・FAX22-0433

観賞用のミックス花、種まき

6/3(土) フラワード咲花草会の定植

朝、5時30分、昨日の雨も上がり、地区の皆さんのご協力で宮沢小学校前のフラワーロードの花の定植と種まきを行った。種は、15種類の宿根草、一年草の混ざった15種類のミックス。ナデシコ・ツキミソウ・ビオラ・ゴデチア・イベリス・コマチソウ・・・。景観形成作物。

雑草を抑制するため、ガスバーナーで土を焼き、二列の溝に種を蒔いた。今回初めてのミックス花の種まきとなったが、さすが農家の皆さん慣れたもの。

東側には、女性部がコキアの苗を定植し、秋には真っ赤に色づく。昨年と違い、これから3年後を見越して試験的に工夫して実施したので7月の開花が楽しみです。



4年ぶり翁山に登る

6/11(日)翁山の春登山

参加者19名(全体27名)が、ハリマ小屋を9時30分出発してブナ林を通り抜けた。薄暗い林の中にひっそり半透明の白い姿のまるで幽霊のような感じの「ギンリョウソウ(ユウレイタケ)」が自生していた。山頂は11時、霧雨のようにあたり一面白く、スーッと翁と白鹿が現れるような雰囲気を感じた。初めて登頂した女性が、「着いた。着いた。廻り何も見えないよ。」「いや、あなたの顔が見えるよ。いいねー。」と、男性が笑いを誘っていた。昼食は、雑木林に腰を下ろし各自おにぎりを食べ11時30分下山開始。

12時45分頃ハリマ小屋に全員が無事到着し、振興会三浦会長から「お疲れ様でした。今日を機会に山を愛して、夏山にも挑戦してほしいと思います」とあいさつがあった。裏方として、宮沢翁塾の菅藤会長はじめ救護班の青年3名が、AED(自動体外式除細動器)等を持参し、参加者の安全を確保するため協力して頂いた。今回の翁山登山の記念に参加者のサイン入り色紙のコピーを配布したところ、「また、来年来る」と事務局に声をかけていた。



授賞おめでとう

交通安全協会宮沢支部

6月3日開催された尾花沢地区交通安全協会定例総会で、令和4年中の活動に対して、優良表彰を受賞した。石山支部長は、「事故なしは、家族みんなの願い。車は、ゆとりと思いやりの運転をしよう」と今年も決意を新たにされた。

- ・飲酒運転防止コンクール 第1位
- ・交通事故防止コンクール 第2位

(写真)左から、吉田副支部長、石山支部長、本間副支部長



フラワーロード咲花草会の視察研修

第40回全国都市緑化仙台フェアに6月15日(木)咲花草会の吉田会長はじめ視察研修に行ってきた。見たこともない花がたくさん咲いていました。「こうゆう植え方いいね。」と勉強にもなりました。今後活かしていきたいと思えます。



小三 書道初段スタート

宮沢書道教室は、児童3人だけの小規模となった。数は少ないが質の高さを保っている。小学三年生の岸杏寿さん(中島)は、4月に初段合格を果している。小学校の習字は、三年生から始まるが杏寿さんは一年生から始め、2年間で16階級を昇りつめている。作品の「手紙」は、三年生の四月課題で見事有段者となったものである。



【指導員 森山 洋さん】

お知らせ

宮沢地区の翁山の麓を流れる中沢川の草刈りのボランティアを募集します!

- ・日時 7月11日(火) 午前5時30分~6時30分
- ・集合 中沢川砂防堰堤周辺(翁山登山入り口)
- ・持ち物 草刈り機等 ※作業用手袋を配付します。
- ・申込方法 7月6日(木)まで宮沢地区公民館へ
電話・FAX 22-0433

はなみずき ヨガ教室

7月12日(水) / 7月26日(水)
時間: 10:00~11:00
場所: 尾花沢市地域交流センター
参加費: 500円
持ち物: ヨガマット
(なければバスタオル)

【7月の行事予定】

日	時間	内容
3日(月)	7:40	さわやかあいさつ運動
9日(日)	7~19:00	市議会議員選挙投票日
11日(火)	5:30	中沢川砂防堰堤整備
12・26日(水)	10:00	はなみずきヨガ教室
20日(木)	9:00	おきな茶屋

宮沢地区の人口と世帯

(6/1現在)(前月比)
男 800人 (-3)
女 782人 (-3)
計 1582人 (-6)
世帯数 582世帯 (-1)



宮沢小学校の“まなび”

幻のお米「さわのはな」田植

6月5日(月)5、6年生の9名が近くの田んぼで「さわのはな」田植え体験をしました。昨年度は5、6年生で取り組んだ「さわのはな広め隊」の活動が「郷土Yamagataふるさと探究コンテスト」で大賞に輝きました。今年も農家の米作りを学習するため、鈴木文雄さん他5名(魁)の指導を受けました。田植えを体験した5年生は「初めてだったけど上手に植えることが出来て嬉しかった。」と話していました。児童たちは、秋の美味しいお米を楽しむにどろんこになりながら笑顔で植えていました。



サクラマス稚魚、成長願って放流

丹生川漁協主催のサクラマス稚魚放流体験を6月21日(水)1~4年生の19名と玉野小学校3、4年生23名が、母袋橋下流の丹生川で行いました。はじめに「サクラマスの一生」を学習し、今日放した稚魚(ヤマメ)は海へ出て大きくなって再来年の桜の季節に、ここに戻ってくることを知りました。その後7600匹の稚魚を「大きく元気に戻ってきて欲しい」と願いを込めながら川に放流しました。



特殊詐欺を防ぐ、地域で声かけ

老人クラブ役員研修

5月31日(水)老人クラブ総会の前に、「特殊詐欺にあわないために」宮沢駐在所の佐藤巡査長から、お話をお聞きしました。今年4月の被害は、県内13件 3,836万円(昨年比 1,453万円増)、そのうち9件が高齢者の被害。年金支給時に被害件数が多い。

1. 固定電話に、「介護保険の還付がある等。」電話が突然きたら、お金の話(詐欺かも)なので警戒し無視する。電話は留守番電話に設定する。防犯機能付き電話機も有効。
2. 携帯電話にメールで、「懸賞金の当選や宅配の荷物を預かっています。料金が未納・・・など」、不審なメールは開かない。

手口の巧妙化さも詐欺だと見破るのを難しくさせている。オレオレ詐欺の特徴は「今日中に払って」など家族に相談させない、考えさせない丁寧な話しぶりをしてくる。詐欺かもしれないと考える余裕がない状態に陥ることもある。相手を不審に感じたり、不安な場合は、ためらわず110通報をしてください。

歌声で、心ひとつに

宮沢はなみずき主催の「おきな茶屋」(高齢者の交流広場)が、6月22日(木)、尾花沢市地域交流センターで行われ、合唱団グループ「フリージア」男性7名とピアノ1名と交流した。代表の伊藤さんから、「歌でつながりたいと想い、尾花沢にきました」と挨拶があり、合唱10曲を披露して頂いた。『ふるさと』を全員で口ずさみ、心をひとつに元気を与えていただきました。



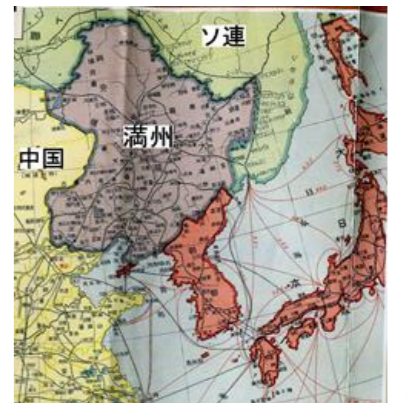
宮沢と満州② 満州はどここの国、なぜ日本人が満州へ

満州とは現在の中国の東北地方で、万里の長城の東の起点山海関の東北にあたる。面積は日本の約3倍、フランスとドイツを併せた広さを有し、万里の長城より東北は蛮族が住む「化外の地」として「清国」でも支配が及ばなかった。明治31年の満州は1^{キロ}平方に4.5人の超過疎地であった。

南下を進めるロシアは、清の義和団の掃討名目で17万の大軍を送り明治33年には全満州を占領し、大連、長春間に鉄道を敷設していた。さらにロシアは不凍港が欲しく清国より旅順港を租借し軍港としていた。そして清国に向かう日本の船舶を攻撃妨害していた。日本は、満州に勢力を伸ばしているロシアがさらに朝鮮(当時日本領)に及ぶのを危険視し、明治38年日露戦争を起こす。その戦場となったのが満州だった。戦場にされた中国は大変迷惑と欲していたが、清の光緒帝は「あの戦争が無かったら満州はロシアのものとなり、永久に清国の手には戻らなかったろう」と語ったと言う。また辛亥革命を主導した孫文でさえ革命の資金を作るため日本の有力者に「満州を買わないか」と持ちかけたと言う。当時の中国は満州を開発する力も無いからどうでもいい土地だったのです。それをロシアに付けこまれた訳です。(『歴史の定説を破る』朝日新書、保坂康正) 現在ロシアがウクライナに侵攻し、世界中の非難を浴びているが、ロシアの歴史は他国への侵略による領土拡大であった。元々はモスクワ周辺の小さな国が今や世界の国土を有する。領土拡大が最大の戦力と防御になる、とロシアは信じていると言う。(NHK ロシア衝突の源流) 日露戦争に辛勝した日本はそれまでロシアが持っていた大連、長春間の南満州鉄道の権利、及びその沿線付属地の租借を得た。それ等の警備のための軍の駐留を中国に認めさせた。軍の駐留地が山海関東部の関東州だった事から「関東軍」の名称が付いた。1万人を常駐させた。

その頃の満州は統一行政が無く、馬賊上りの軍閥が割拠し勝手に税を徴収するなどの無法地帯であった。さらに中国が辛亥革命で混乱し、ロシア革命で勢力を増しつつあるソ連に再び満州が狙われる。ソ連に奪われるくらいなら日本が支配しようとして関東軍が目論んだようだ。

昭和3年、関東軍は満州軍閥の張作霖を列車ごと爆発させた満州某大事件、さらに同6年(1931)「満州事変」を起す。その頃、満州では昭和5年だけでも万宝山事件、関東軍の中村震太郎殺害など81件の事件、死者44人を出す暴動があつて「関東軍の刀は竹光か」と揶揄され治安を関東軍に求めてきたのも事実。満州事変を主導したのが関東軍参謀で鶴岡出身の石原莞爾である。彼の目的はこの無法地帯に五族(満州族、漢民族・日本人、蒙古族、朝鮮人)が協和し、規律ある王道楽土を建設する事であった。それは石原の侵攻の口実だと言うが、その後の石原の言動からみると本心であったようだ。



文責 宮沢地区歴史保存会 三浦幹雄

334年前、俳聖松尾芭蕉と門人曾良の旅を偲ぶ

江戸時代の元禄2年(1689)5月17日

(今の7月3日)、山刀伐峠の難所を越えて尾花沢の豪商鈴木清風に迎えられました。

芭蕉来訪展の開催中 → 7月11日(火)まで、芭蕉、清風歴史資料館

